

BCAO関西支部 平成28年2月度 第108回勉強会 議事録

■日時：2月17日（水）19:05～20:30

■場所：大阪中央公会堂 No6、7会議室

■出席者：18名（順不同、敬称略）

司会：大館 書記：野原

萩原、鷺山、日下、速水、藤村、田中、角、飯田、大木、笹平、増穂、櫻本、別役、岡田、佐々木、林

■勉強会テーマ：

「平成27年度 BCAO 関西地域勉強会 各WG活動報告」

- ① WBC—WG活動報告 発表者 鷺山殿
- ② BCBG—WG活動報告 発表者 飯田殿
- ③ 危機管理—WG活動報告 発表者 日下殿

■概要：2015年度BCAO関西地域勉強会 各WGの活動を振り返り活動成果を発表。

■発表内容

1. WBC—WG活動報告

<メンバー紹介および活動概要>

実効性のあるBCPを目指して

WG設立から、現在までの経緯、メンバー説明

最近のBCの動向、BCの実効性を高めるためにはどうすればよいかを検討

結果としてまとまったものは作成できていない

<本年度の活動実績>

今年は7回実施

4月 広島のと砂災害、BCAOの演習講座に参加して

5月 小規模製造業におけるお互い様連携について

BCPの実装性はあるのか

6月 リスクマネジメントとBCP、原因事象と結果事象

7月 演習手法と標準化について 山形XEROXのBCP対応

9月 鬼怒川の大水害について 線上降水帯について議論、

結果事象に対するBCP

11月 中小企業BCP策定の課題

1月 国土強靱化貢献団体に対する認定制度について

<反省と課題>

毎回テーマを変えて議論できるので新鮮なテーマで議論できてよかった。

少数人数で、議論を重ねてきたが、意見が固定化されていた。

トピックスが多く、なかなか深堀ができなかった。

達成感としては、結果としてまとまったものは作成できなかったのが若干達成感に欠けた。2012年、2013年は教育訓練について、特にソフト面、スキル面をどうしていくのか、企業として事業運営に忙しい中、なかなかBCPについての教育、訓練の時間を取る事ができない。

限られた、時間の中でポイントを押さえた、目標を明確にした訓練をどのように行っていくのか標準化できないか議論を行っていたが結論は出なかった。

この2年間は、ざっくりばらんに意見交換を行ってきたが、結論を出すまでには至らなかった。

WBC-WGは本年度をもって解散するが、来年度は若手の方にWGを発起いただき研究、議論を行っていただきたい。

なぜ中小企業でBCPの策定が進んでいないのか議論を行ったが、内閣府のBCP策定状況の調査資料等もあるが実際のところわからない。中小企業でBCP策定が進まない理由は1. 人がいない、2. 法的規制がない、3. 必要性を感じない といった理由が主である。

中小企業は利益優先になっている事が多い。経営者と従業員の関係が組織的に動ける関係になっていない。

結果としては経営者の意思、平常時からのリスク管理意識、リーダーシップが重要。

2. BCBG—WG活動報告

<メンバー紹介および活動概要>

2014年5月以前はB&B-WGでBIAを軸足に置いて活動。その後BCBG-WGとして活動BIA以外にも枠を広げて活動。BCについて様々な課題について議論を実施。

1年半活動を行ってきたが、これといって結論が出たものはない。また結論を出す事に こだわった活動を行ってきたわけではなく議論の場として活動してきた。

会議の進め方はファシリテータを決め、出た意見を白板にまとめる方法で実施した。検討内容については事前に宿題も出る事があり、その宿題に対しての個々人の考え方をもとに議論を行い、ファシリテータがその内容をホワイトボードにまとまる様な進め方を行っている。

<本年度の活動実績>

2015/4/9

- ①関西支部勉強会への対応
- ②柳父論文「固定費問題に基づく製造調達プロセス障害時の修復方針立案課題」

2015/4/23

- ①支部会でのWG報告
- ②論文について
- ③BCBGWGの今後(BCBG独自の標準テキストを作りたい)

2015/6/12 メンバーの最近の動きと今後のBCBGでやりたい事

2015/7/16 8月勉強会 BCBG WG活動報告内容確認

2015/8/7 8月勉強会 BCBG WG活動報告内容確認

2015/8/26 結果事象から考えるBCP

「固定費問題に基づく製造調達プロセス障害時の修復方針立案課題」

2015/9/4 10月勉強会 BCBG WG活動報告内容確認

2015/11/25 BCAO標準テキスト掲載の時間概念①

2016/1/25 BCAO標準テキスト掲載の時間概念②

<今後の活動について>

- ・そろそろマンネリになってきた。理由はネタ切れでこれ以上議論が進まない事である。解散も選択肢だがもうひと頑張りを考えたい。
- ・提案だが当WGで独自のBCテキストを作成する事である。それはここまでの集大成にもつながる。
- ・そのテキストの作成目的としては、会員が実用的により親しみをもってBCを活用いただけるものを作る事。
- ・そのためには、幅広くBC構築に対する意見・提案をとりいれた具体的で有用な記述が必要である。
- ・また、意見の相違もあるので、であるべき調でなく、幅広い内容をもった事例中心の柔軟性が必要である。
- ・今のWGメンバーだけでなく、幅広く参加者を求めて、必要によってはWG内の分科会的進め方も必要になる。
- ・この進め方は当面試行錯誤になるが、関西支部員の意見・提案、そして参加を求めて積極的に進めていきたい。
- ・何でも語り合えるWGでありたい。楽しくお互いがためになる時間にしたい。定例会出席は各自の都合で適宜自由とする。
- ・新しいメンバー大歓迎である。
- ・あせらず、がんばらず、おこたらずで行く。ファシリテータは当番制。

- ・当目的によるWG開催期間は1年とする。

(3) 危機管理—WG活動報告

<メンバー紹介および活動概要>

月例の勉強会以外でもっと自由に意見交換する場が欲しかった。また特定のテーマで討議するだけでなく個々人の知見を活かす方法があると感じ、本WGを企画した。

主に、以下のテーマについて討議を行った。

- ①電力危機やエネルギー不足にどう対応するか
- ②所属組織や日本のエネルギーをどう確保するか
- ③防災・危機管理・事業継続に関する意見交換

残念ながら参加者メンバーの職場等で対応を要する危機的事象が増え、WGに割ける時間、参加者も減り、参加者が業務に邁進する事こそ「一番の危機管理」となるため、解散を決意した。

<本年度の活動実績>

WG設立当初はエネルギーWGとして立ち上げ、エネルギー問題を中心に議論を重ねた。2015年度は以下の合計3回（4/20、9/24、12/8）の活動となった。回数は少なかったが、有益な情報共有や意見交換ができた。

<活動としての気づき>

- ①危機管理は特別な事ではない。危機管理は「日常業務」であり、「危機」は毎日起こる。今日もJRの環状線が停止していた。危機はどこにでもある。発生時には、まず落ち着く事が重要。それから、危機の全体像を把握する。そうすればおのずと何をどうすればよいかわかる。危機管理は「日頃からの備え」が重要である。
- ②「Intelligence」が重要である。単なる「Information」情報ではない。うわべだけの情報では本当の事はわからない。現在はマスメディアからの提供される情報量も多いため、そこからIntelligenceが得られるかわからない。
- ③危機管理は、事業継続の前提条件である。危機管理なくして事業継続は成り立たない。人的、物的損害を最小限にするというのは防災の目的である。危機管理はもっと広く、危機的事象が起きた時に組織、地域、国家、社会に対して最適な対応を取り、その後の展開を有益にする事が危機管理である。

<最後にお願いしたい事>

- ①東日本大震災被災地への支援を継続してほしい。まだ震災復興ができていない。
神戸も同様。人や心の問題もまだ残っている。沿岸部の人口減少も15万人と大きい
- ②BCAO 関西を活発な情報共有の場として継続してほしい。
- ③危機情報・リスク情報の共有 もう少し気軽に情報共有をしてほしい。

<2016年の課題>

- ①世界経済大変動への対応。中国の経済的リスクが大きすぎる。
- ②災害やテロ、サイバー攻撃への備え。テロ、サイバー攻撃の増加
- ③シリア難民など、人道危機への対応。アジア地域でも起こりうる問題である。
その時日本はどう対応すべきか。

— 以上 —